

## アライグマによると思われるミシシippアカミミガメの前肢食害:

### 屋外人工池での一例

楠田哲士<sup>1,2</sup>・前田佳紀<sup>1,2</sup>・原口句美<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室

<sup>2</sup> 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学応用生物科学部 応用動物科学コース 動物園生物学研究センター

A red-eared slider forelimb that probably fed by common raccoon at outdoor facility of freshwater turtles in Gifu University

By Satoshi KUSUDA<sup>1,2</sup>, Yoshiki MAEDA<sup>1,2</sup>, and Kumi HARAGUCHI<sup>2</sup>

<sup>1</sup> Laboratory of Animal Reproduction, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, 1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan

<sup>2</sup> Zoo Biology Research Center, Course of Animal Science, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, 1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan

近年、野外でニホンイシガメ(以下イシガメ)やクサガメの四肢欠損個体が多数発見され、小賀野他(2014;2015)、小菅・小林(2015)、多田他(2017)などの報告において、アライグマによる食害である可能性が指摘されている。しかし、ミシシippアカミミガメ(以下アカミミガメ)における四肢欠損に関する報告は見当たらず、先述の小賀野他(2014;2015)と多田他(2017)の報告でもアカミミガメは多数捕獲されているにも関わらず、四肢欠損は1個体も発見されていない。

2018年3月7日、岐阜大学構内の淡水生カメ類の屋外飼育施設「淡水生物園」(楠田他, 2013)内で、右前肢を欠損したアカミミガメ1個体を発見したので、その状況について報告する。

当該個体の発見時、淡水生物園内では、研究飼育エリアの区画池でアカミミガメとクサガメを、自然飼育エリアでイシガメをそれぞれ数十個体飼育していた。2013年以降、園内1~2カ所にセンサーカメラを設置し、侵入動物の監視を続けてきた。

園内のアカミミガメの飼育個体は、人が近づくと、上陸している個体はすぐに水中に飛び込み、また水面の個体もすぐに潜って隠れるが、弱っている個体は陸上に留まるか水面に浮いたままとする傾向があることが以前から観察されていた。当該個体は区画池7番の飼育個体(標識番号1187, 表1)で、2018年3月7日、陸上に留まり(3月4日には同個体が弱って陸上にいたが、食害の有無は観察していなかった)、逃げる様子が見られなかったため持ち上げて確認したところ、右前肢が欠損し、骨が露出していた(図1)。

表1 右前肢を欠損したミシシippアカミミガメの個体情報

性別	雄
捕獲日	2017年5月29日
体重	485.5g (捕獲時)
背甲長	143 mm (捕獲時)
欠損確認日	2018年3月7日
死亡日	2018年3月12日

欠損部は赤く、出血痕を認めたため、比較的新しい傷であると考えられた。欠損部の状態は、小賀野他(2014)および鈴木他(2015)が報告したアライグマによるものと思われるイシガメの前肢欠損の写真と類似していた。

当該個体の発見後、センサーカメラの撮影画像を回収し確認したところ、当該個体発見前の2018年3月2日(1時51分～2時14分)と3月4日(19時09分～19時19分)に、アライグマが撮影されていた(図2)。当該個体発見後の3月24日(4時05分～4時07分)にも出没していた。アライグマの撮影時刻と体の向きなどから撮影ポイントと推定移動ルートを図示して整理した結果、当該アカミミガメが発見された場所を頻繁に行き来していることが確認された。これらの日を含む同月内に撮影されていた他の動物は、カラス、キジバト、ツグミ、スズメであり、イエネコやイタチ類等の捕食者となりうる肉食性哺乳類は確認されなかった。岐阜県内では、県南部にアライグマの分布が集中しており、岐阜大学の周りでも生息が確認されている(県域統合型GISぎふの登録データより、図3)。また、岐阜県では大垣市と関市でアライグマによると思われるイシガメの両前肢欠損個体が発見されている(田上他, 2019)。

当該個体の発見状況と関連の知見から、アライグマによる食害の可能性が高いと判断した。当該アカミミガメは弱って陸上にいたところを襲われたものと考えられた。

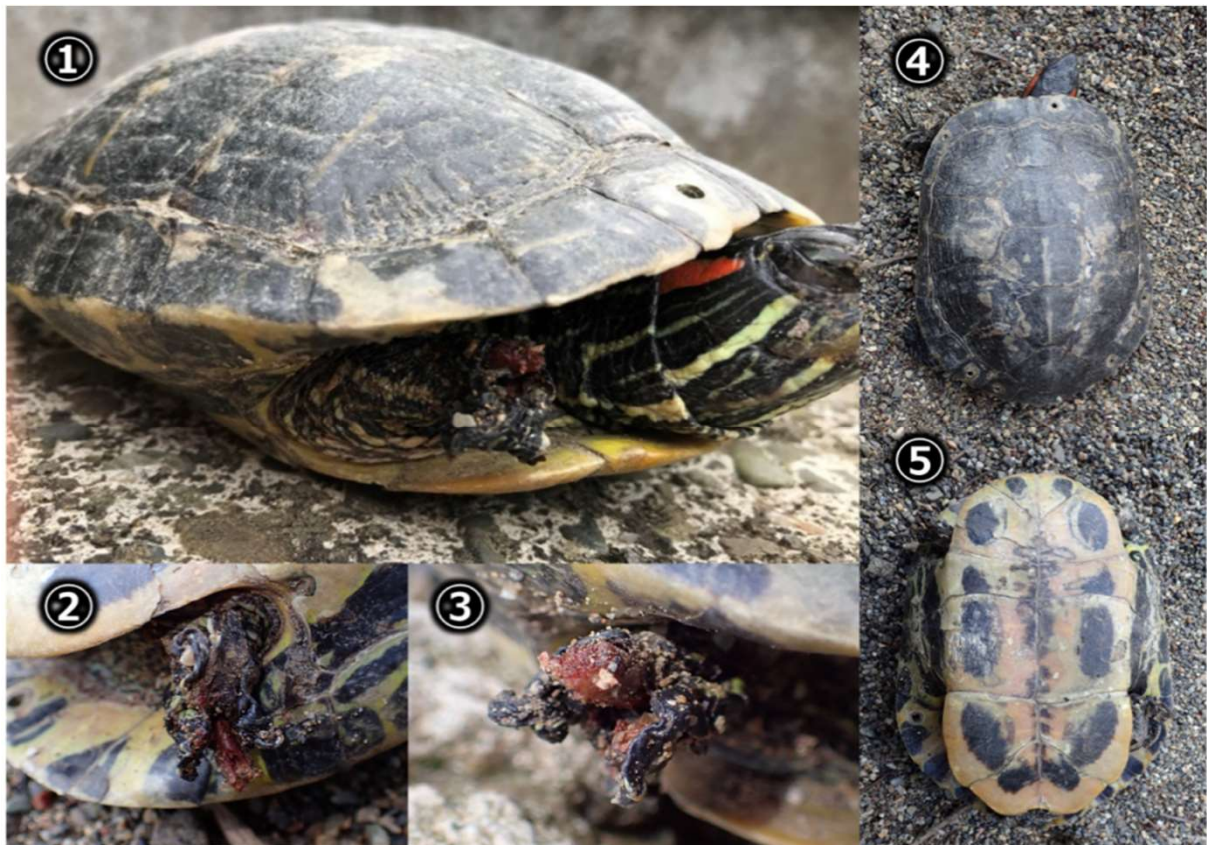


図1. 淡水生物園内で発見されたミシシippアカミミガメの右前肢欠損個体

①2018年3月7日撮影, ②～⑤2018年3月11日撮影



図2. 淡水生物園内のセンサーカメラで2018年3月に撮影されたアライグマ

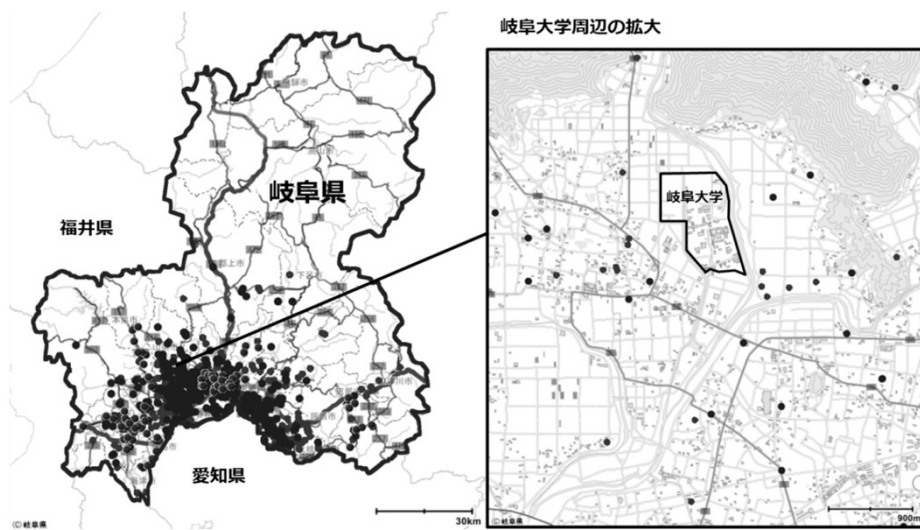


図3. 岐阜県内でのアライグマの発見状況(県域統合型GISぎふの登録データより). 丸プロットは平成18年度特定外来生物生息分布調査結果(2001年以前~2006年の捕獲と目撃報告), 平成23年度調査結果(2010~2011年の捕獲と目撃報告), 平成28年度調査結果(2015~2016年の捕獲と目撃報告)を示す.

引用文献

楠田哲士・安積修平・加古智哉・宮元彩希・古橋美穂・吉川晶子. 2013. ニホンイシガメの保全池「淡水生物園」の活動. 亀楽 6:4-7.

小菅康弘・小林頼太. 2015. アライグマによる淡水カメ類の危機. 爬虫両棲類学会報 2015(2):167-173.

小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫. 2014. 房総半島で生じているアライグマによるニホンイシガメへの被害調査. p. 103-112. プロ・ナトゥーラ・ファンド助成第22期助成成果報告書. 公益財団法人自然保護助成基金, 東京.

小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫. 2015. 房総半島の溜池に生息するニホンイシガメの危機的状況. 爬虫両棲類学会報 2015(1):1-8.

鈴木 大・會津光博・菊水研二. 2015. アライグマの被害を受けたと考えられるニホンイシガメ. 爬虫両棲類学会報 2015(1):15-17.

多田哲子・坂 雅宏・西堀智子. 2017. ニホンイシガメはアライグマに襲われやすい!?. p.85-87. 第4回淡水ガメ情報交換会講演要旨集. 認定NPO法人生態工房, 東京.

田上正隆・高木雅紀・楠田哲士. 2019. 岐阜県で発見されたアライグマに襲われたと考えられるニホンイシガメ. 亀楽 17:8-10.